



主のご復活おめでとうございます

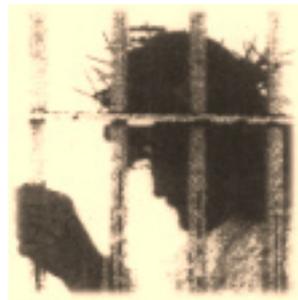
チャプレン ～教会外で働く司祭の姿～

勝谷司教が2013年の司教叙階後に呼びかけた一つの願いは、「教育現場と教会を繋げたい」というものでした。その呼びかけに複数の聖職者が応え、現在までチャプレンとして学校教育現場に協力してきました。高校に加え幼稚園や保育園、児童・高齢者施設、障がい者施設に現在も多く、聖職者が関わっています。そもそもチャプレン(chaplain)とは、教会以外の施設で宗教主任・主事として働く宗教者を指します。病院や学校、ホスピスなどの施設で、患者や利用者、生徒やスタッフの心のケアや宗教的なケアを行います。それとは別に刑務所や少年院などの矯正施設に収容されている人に対してはチャプレンではなく、教誨師と呼ばれる諸宗教の聖職者からなるメンバーで関わります。今回は、札幌教区内で働くチャプレン・教誨師に焦点を当て、皆さんに一部の担当者からの声を届けたいという願いから、掲載することになりました。(教区事務局長 松村繁彦)

教誨師 (きょうかいし)

マンフレード神父

私にとって教誨師という聞きなれない言葉は、宗教を教える言葉と初めは思っていました。それが、それは宗教の壁を乗り越えて、受刑者に希望と励ましの指導を与えることです。旭川の刑務所では何十年の間、数名の神父が聖書クラブをおして、カトリック教会の使命を果たしてきていました。数年前、旭川地区のドミニコ神父は、当時教誨師であったのですが、私を旭川刑務所に後任として紹介するために連れて行ってくれました。そして間もなく法務局の紋章と公印が入った「教誨師之証」が届きました。改めて「教誨」という文字を見て、私なりの解釈を考えました。旭川刑務所の聖書クラブで、受刑者に出会うことはイエス様の言葉の導きだと思いました。「私が牢に居た時に、あなたは訪ねてくれた」



(マタイ 25・36) を思い出し、毎月聖書の教えの中から希望と光を伝えたいと喜んで準備しながら訪ねています。

けではなく、札幌、月形の刑務所からも面会の願いがあり、すぐに参りました。月形刑務所では、個人面会を願った方の中には、ほとんど毎週訪ねました。事務所の記録によると、その同じ方への面会回数は200回を超え、あまり例がないそうです。その方はまだ洗礼を受けていませんでしたが、面会での話の内容は、聖書の説明やカトリックの教え、日曜日のミサ福音の説教を題材にしたものでした。その感謝のしるしとして、毎回私に手紙が届きました。刑務所の管理事務所からチェックされたスタンプのついた手紙ではあるし、



本人からの許可も得て、数人に見せたのですが、読まれた方たちは「これは私たちにも信仰への励ましの言葉です」と言われ、この手紙は2冊の本になりました。私にとっては、刑務所で時かれた種は、その本を読んだ人々の心の励ましになると聞いて、日本への宣教師の使命はこんな風にも根を下ろすのだなあと驚いています。聖書クラブ参加者の一人の声を記します。

「かつて私は、お金がいつばいあることが一番幸福と考えていました。お金があれば、何でもできる、何でも買える。妻や子供たちにとっても、それが一番幸福なこと、そう思っていました。しかし、その考え方が間違っていることに、聖書クラブに加入して気づきました。お金は貯めたり増やすことはできませんが、命と言う時間は限られています。私が一番大切に思っている私の家族から、大切な時期に大切な人と過ごす貴重な時間を自ら奪ってしまつた。本当の幸福とは、愛する人と一緒に、ささやかでも心穏やかに、時には笑い、時には泣いたりして平凡な日々を過ごすこと。幸福とは、自分が愛する人にとって幸福な道を選ぶこと。聖書クラブはお金がなくとも幸福な人はいっぱいいることに気づかせてくれました。」

今の時代、特に聖年の年に、希望の巡礼者、ということを実行するために、フランススコ



天皇は自ら刑務所の扉をたたきま
した(カトリック新聞)。にもか
かわらず、ある時に刑務所の中
で「何を伝えたいのか」と聞かれる
時がありました。私の返事は「希
望ですよ」。尋ねた人は「刑務所
に希望はあるのか」と笑いました。
彼にはもしかしたら希望は見えな
いかもしれない。希望がないと
思う時、希望を捜すことは希望に
なりません。どんな人にも人間の心
は希望への望みを持っていて、そ
れをある人々は宗教心と言うし、
私たちキリスト信者としてはキリ
スト自身なのです。そして日本
の教護師という制度は、宗教に対
する自由は保護されていて、刑務
所の中であっても宗教に触れる自
由が与えられていることは希望の
しるしです。

その中で何年もの間、受刑者と
共に聖書を読んでキリストの道を
伝えることが出来ることは、宣教
師として私にも大きな励ましと力
になっています。感謝いたします。

幼稚園チャプレン

佐久間力神父



神父に
なって、
一番大変
なことは
何ですか？

と問われれば、わたしは迷わず
「幼稚園の子どもたちへのお話し
です」と答えます。教会でのミサ
の説教は、この難しさに比べれば
本当に些細な苦しみでしかないと思
っていました。しかし、教会の
神父になった以上、この仕事は避
けられないことと心を定めて挑ん
でいます。

幼稚園では、おおよそ次のよう
なことを担当します。①子どもた
ち向けに神様のお話をする。②職
員、先生向けに宗教講話をする。
③お誕生会、七五三など様々な機
会での子どもたちの祝福。④その
他、卒園感謝の祈りや、クリスマ
ス会お遊戯会への出席など。これ
らがチャプレンの仕事となるかと
思います。

①については、先に申した通り、
子どもへの神様のお話はとても難
しいです。わたしの場合、話は長
くても5分程度。この5分でも
「つまらない」と思わせてしま
うと、全く話を聞いてくれないので、
大げさに演技したり、人形を使っ
て子どもの興味をひいたり、色々
と工夫をします。もちろん、信者
の子供はほんごいないので、日
常における教会体験も全くない子
どもたちです。だからこそ、ここ
での神様のお話は、大切な「種ま
き」であると思っているのです。手
を抜くことはできないと思ってい
ます。

②の職員、先生への宗教講話も
大切です。カトリック幼稚園とは
いえ、洗礼を受けた信者の先生は
ほとんどいません。そのため、キ
リスト教的、あるいはカトリック
的人間観などを知っていたら、
その上で、子どもたちに神様につ
いてどのように伝えるかを考えて
もらうことを大切にしています。

通常は、キリスト教入門的なお話
をしますが、先生たちが子どもた
ちにする話のアドバイスなどもし
ています。

それぞれの幼稚園には、それま
で関わって来た司祭や修道会の司
祭によって、それぞれの色とい
うか培ってきた伝統があります。そ
れらを理解し受け取りつつ、イエ
ス様について、神様について子ど
もたちにどんな「種まき」ができ
るかを常に考えつつ、これからも
研鑽を積んでいこうと思います。

学校チャプレン

桶田達也助祭



現在、札
幌教区には
カトリック
系の中学校・
高等学校と
して、北見藤星高等学校(共学)、
旭川藤星高等学校(共学)、海星
学院高等学校(室蘭・共学)そし

て、札幌光星中学校・高等学校
(共学)、藤女子中学校・高等学
校(札幌・女子)、函館白百合学
園中学校・高等学校(女子)、函
館ラ・サール中学校・高等学校
(男子)があります。(札幌聖心
女子学院中学校・高等学校は今年
3月閉校、8ページ参照)

中学校・高等学校担当のチャ
プレンは、入学式、修養会・黙想会、
追悼式、卒業式等の学校行事に出
席或いは司式したり、教職員の研
修を行ったりしています。時には
ゲストとして「宗教」授業の一部
を担当することもあります。(昨
年度、函館地区では、神父と助祭
が函館白百合学園高等学校全クラ
スの「宗教」を1年間の期間限定
で担当することもありました。)

「宗教」は、学校教育法施行規
則で、私立学校において設置でき
る科目で、キリスト教系学校をは
じめとして、仏教系の学校などにも
置かれています。担当教員は、
基本的に大学の神学部を卒業し
「宗教」の教員資格を有します。
ただし、「宗教を教える」とは言っ
ても、カトリック的な理念・精神
に基づく人間形成、宗教理解を目
指すものであり、信者の獲得を目
指すわけではありません。生徒達
が、キリスト教を信じるために入
学してゐるわけではないからです。
(今回、白百合の授業に先立って
行った高1高2へのアンケートで

も、「神(超越的絶対者)を信じ
ますか」に対して「信じます27%、
信じません21%、考えたことあり
ません47%」、「あなたは何教徒
ですか」に対して「何でもありま
せん82%、〇〇教徒です12%」で
した。)

チャプレンとしては、教会から
子ども達の姿が消えて行く現実の
中で、キリスト教に、イエス様に、
福音に触れてほしい、知ってほし
いのです。ミッションスクールが
本来の教育機関としてのミッシ
ョンをまず完全に果たした上で、カ
トリックの宗教の歴史、思想、現
状に関しての理解を持ってもら
いたい。そう願ってやまないです。

【教区司祭人事】4月1日付

- 旭川地区
- 旭川五条教会
主任 佐久間力(羽幌教会・
留萌教会兼任)
- 長尾俊宏(主任を解く)
- 中村道生(助任を解く)
- 教区外
- 道外(福岡教区内)
ケネス・スレイマン(札幌
東ブロック協力)
- 居住地変更
- 月寒教会 松村繁彦
奇浩培
- 北一条教会 千葉充

おめでとうございます



ダイヤモンド祝

ヨハネ・千徳康雄神父

1938年2月18日生 87歳

1965年3月19日叙階

千歳・恵庭協力

振り返りますと、叙階の準備段階である小神学校時代と大神学校時代の10年間も含めると、押し並べて70年間、各地区の信徒の皆様からたくさんのお支え、加えて経済的支援を頂きました。

それらの支援の一例です。一粒会員の皆様や大神学校時代に院長から与えられたスイスの恩人バルマ氏が思い起こされます。ここに紙面をお借りして、心から皆様様に御礼を申し上げます。本当に有難うございました。

小神学校長であられた中川宏神父から、卒業時に送られた聖句、それは「蛇のように賢く、鳩のように素直になささい」との一節でした。そしてこの聖句は、その時から座右の銘となり続けられています。

最後に一言、千徳家を含めてすべてに感謝です！



銀祝

アンドレア

松村繁彦神父

大阪高松大司教区

1968年4月5日生 56歳

2000年3月20日叙階

江別・大麻・小野幌・新田・

岩見沢・北広島・月寒・北一

条・真駒内・千歳・恵庭主任

教区事務局長



銀祝

ヨハネ・ドゥンス・スコトゥス
あつし

山谷 篤 神父

フランススコ会

1961年3月28日生 64歳

2000年3月18日叙階

北十一条・北二十六条・

花川協力



金祝

マテオ

イ・ウォンギョ

李 源圭 神父

韓国・ソウル教区

1947年2月8日生 78歳

1975年12月8日叙階

北広島・千歳・恵庭協力

花川協力



金祝

クレト

中村道生神父

フランススコ会

1941年9月4日生 83歳

1975年7月15日叙階

旭川五条・旭川六条・

神居・大町・富良野助任

6年前の春(2019年5月)令和元年が始まった月、それまで長年フランススコ会の修道司祭が担当してきた旭川地区に、教区司祭のわたしが派遣され、最北の稚内と枝幸教会を担当することになりました。道南の函館で生まれ育ったわたしは、それまで70年生きてきて、旭川までは行ったことがありませんでしたが、それより北には一歩も踏み入れたことがありませんでした。前任地も函館の教会として、函館から稚内までの引越しドラッグは2日かかり、マイカーの走行距離は590kmに及びました。

「住めば都」とはよく言ったもので、初めての土地でしたが、お酒は飲めるし、近くに温泉はあるし、何よりも信徒の皆様が、それまでの神父さんたちとは毛並みの違う教区司祭のわたしを暖かく迎えてくれました。月に一度旭川の修道院で旭川地区の司祭の集會が一泊であり、フランススコ会の神父さんたちも、わたしを兄弟の仲間に入れてくれて、たくさんご



札幌教区(北海道)は
広〜い!



稚内・枝幸
名寄・士別教会主任

今田玄五神父

馳走になり感謝しています。

2年前の春からは司祭の人手不足から、名寄と士別教会をも担当することになり、守備範囲が大きく広がりました。この四教会のおよその距離、車での所要時間(冬期間)はもつとかかるを記すと、稚内―枝幸間120km、2時間。稚内―名寄間180km、3時間。名寄―士別間22km、30分。枝幸―名寄間90km、1時間30分です。こんなに離れたところにある4教会を1日のうちに回ってミサをするのはとても無理なので、主日のミサは一週おきに、今週は稚内9時30分からと枝幸14時からとすると、次の週は名寄(10時から)と士別(14時から)というように交互にしています。主日にミサができない教会では、集會祭儀をしています。

わたしの生活の拠点も稚内と名寄の2ヶ所となり、一週おきに一週間づつ交互に暮らしています。本州なら一つの県のような広さのところを、一人の後期高齢者の司祭が行ったり来たりしています。

青少年クリスマス会

2024年12月15日、青少年のクリスマス会がカトリックセントアーで、青少年のミサが北一条教会の聖堂で開催されました。14時から中高生の部としてクリスマス会が行われ、みんなでパフェを手作りしたり、持ち寄ったクリスマスプレゼントの交換を楽しみ、17時に青年も加わったのミサが開催されました。ミサは「待降節第3主日」の典礼で行われ、勝谷司教がバラ色の祭服を着て出られると、皆が一斉にスマホをかざし撮影していました。その後、青年だけで札幌教区内で進められている「霊における対話」の体験会、全員でクリスマスパーティーを楽しみ、互いに交流を深める一日となりました。ミサでは中高生をはじめ、日本人だけでなくベトナム



人の青年など多くが集まり、また他宗派（聖公会など）の教会の青年など、バラエティーに富んだメンバーが集まり、若者たちの大きな力を感じる時にもなりました。これからも、青少年の活動を通して、彼らのネットワークが広がっていくことを期待できる瞬間となりました。（青少年担当・佐久間力神父）

旭川地区侍者会

旭川地区の恒例行事である「旭川地区侍者会」が、1月12日、13日、カトリック旭川五条教会で開催されました。侍者会はコロナ禍で中止した年もあるものの、少なくとも40年は続いている行事です。

札幌教区で最も面積が広い旭川地区。かつては各地から子ども達が多く集まり賑やかでしたが、少子化、教会離れの影響もあり、ここ数年は10人前後の参加とアットホームな雰囲気で開催していました。今年は最北の地、稚内教会からの参加もあって参加者が15人となり、久しぶりに賑やかな会となりました。この「侍者会」は、文字通り

侍者の所作を学ぶことが一義的な目的ですが、広い旭川地区の子ども達が年に一度顔を合わせ同じ時間を過ごすことで同じ信仰を持つ「仲間」としてのつながりを深める機会にもなっています。さらに侍者会経験者がスタッフとして活躍するなど教会との関わりを持ち続ける役割も果たしていると言えます。

今年は、侍者の所作のほか、自分や家族の霊名の日や自分の教会堂のお祝いの日を調べ、オリジナルの「カトリックカレンダー」を作成したほか、ゲーム大会など楽しい時間を過ごしました。最終日には、子ども達自らが役割分担やミサの準備をし、担当の佐久間神父司式によるミサを行い、互いに再会を約束しながら、帰路につきました。

子ども達からは、夕食のカレーがおいしかった。子ども達も



い感想のほか、友だちができて嬉しかった、また来年も会いたい、楽しかったからまた参加したいといったスタッフの疲れを吹き飛ばすような感想がありました。来年の侍者会で再会できることを楽しみにしています。（大町教会・梶山朋宏）

ネットワークミーティング

今回のネットワーク・ミーティング（以下NWM）は、2025年2月22日、23日、横浜教区主催で、静岡県御殿場市の国際青少年センターYMC A東山荘にて行われ、全国から100人を超える青年が集まりました。冬の寒さが厳しい中ではありましたが、初日には屋外で、2日目には体育館を利用してレクリエーションが実施され、存分な体を動かすことができました。NWMへの参加は約5年ぶりでしたが、2日間を終えて、いつも通りのNWMだったというのが率直な感想です。工夫を凝らしたレクリエーションに加え、深みのある分かち合い、締めくくりにミサと充実した2日間を過ごせました。

今回のNWMは、100人の規模での開催は、2020年以降初めてのこと聞き驚きました。いつもの困難を経て「いつも通りのNWM」が開催されたことは、決して当たり前のことではなく、これからのNWMの存続・発展においても、とても大きな意義のあることだと感じました。

今回、100人の規模での開催は、2020年以降初めてのこと聞き驚きました。いつもの困難を経て「いつも通りのNWM」が開催されたことは、決して当たり前のことではなく、これからのNWMの存続・発展においても、とても大きな意義のあることだと感じました。



5年前、私はNWMでたくさんの学びと貴重な出会いを得ることができました。今後もNWMが得難い機会を提供する場として続いていくように、微力ながらも貢献できればと思います。最後に、横浜教区の皆様、素敵なNWMを開催していただき本当にありがとうございます。（月寒教会・西川量）

2024年 カトリック札幌司教区教勢報告書

2024年1月1日～12月31日

教区総面積	78,419 km ² (北海道地勢2024年1月1日現在)
教区総人口	5,093,983 人 (住基台帳人口2024年1月1日現在)

※ () は前年値		
在籍信徒数	13,430 人	(14,046 人)
教役者合計	283 人	(285 人)
信者総数	13,713 人	(14,331 人)
求道者数	60 人	(64 人)
洗礼者数	80 人	(91 人)
初聖体	47 人	(47 人)
堅信	60 人	(54 人)
居所不明	617 人	(831 人)
死者	292 人	(243 人)
婚姻件数	20 組	(15 組)
信徒同士	5 組	(3 組)
信徒と他キリスト教	3 組	(0 組)
信徒と非キリスト教	11 組	(9 組)
他宗教同士	1 組	(3 組)

教会名	信 徒 数				異 動						
	男	女	合計	居所不明	転入	転出	幼児洗礼	成人洗礼	死者	求道者	
1 岩見沢	101	147	248	0	2	2	2	4	3	0	
2 恵庭	45	51	96	3	5	9	0	0	0	0	
3 江別	48	69	117	8	0	1	0	0	3	1	
4 大麻	93	132	225	43	2	2	0	0	3	0	
5 北一条	227	428	655	57	23	9	4	11	13	6	
6 北十一条	579	945	1,524	14	14	10	2	11	22	4	
7 北二十六条	206	313	519	10	5	300	0	3	18	0	
8 北広島	176	274	450	36	10	29	0	1	10	0	
9 倶知安	29	44	73	4	0	0	0	0	2	0	
10 小野幌	170	295	465	50	6	2	0	3	12	0	
11 新田	53	85	138	5	3	1	0	0	6	0	
12 小樽	66	189	255	2	4	8	0	0	13	7	
13 千歳	60	115	175	0	0	4	0	1	4	0	
14 月寒	207	369	576	0	5	28	0	0	15	1	
15 手稲	150	222	372	0	11	5	1	4	9	0	
16 花川	70	106	176	9	0	2	0	1	2	0	
17 真駒内	218	343	561	75	9	5	3	6	9	4	
18 円山	348	598	946	56	0	7	2	5	24	3	
19 山鼻	224	380	604	0	8	9	0	3	6	2	
札幌地区計	3,070	5,105	8,175	372	107	433	14	53	174	28	

教会名		信 徒 数				異 動					
		男	女	合計	居所不明	転入	転出	幼児洗礼	成人洗礼	死者	求道者
20	江差	1	9	10	0	1	0	0	0	0	0
21	当別	59	71	130	40	0	0	0	0	1	0
22	宮前町	232	352	584	0	1	18	2	3	15	3
23	元町	75	148	223	0	1	2	0	0	5	0
24	八雲	24	48	72	10	0	0	0	0	0	0
25	湯川	200	334	534	0	5	0	0	2	9	4
函館地区計		591	962	1,553	50	8	20	2	5	30	7
26	網走	27	28	55	0	0	0	0	1	1	1
27	遠軽	13	16	29	0	0	0	0	0	0	2
28	北見※2	64	142	206	23	0	1	1	2	6	5
29	紋別	7	7	14	0	0	0	0	2	0	2
北見地区計		111	193	304	23	0	1	1	5	7	10
30	旭川五条	102	157	259	9	1	1	0	1	8	0
31	旭川六条	90	146	236	0	3	0	1	2	6	1
32	枝幸	9	5	14	10	0	0	0	0	0	0
33	大町	54	115	169	0	3	2	0	1	5	1
34	神居	43	65	108	10	2	54	0	1	5	1
35	士別	10	18	28	0	0	0	0	0	1	0
36	砂川	22	46	68	2	1	0	0	1	1	8
37	滝川	48	69	117	0	0	2	1	2	0	2
38	名寄	23	51	74	0	0	2	0	0	1	1
39	羽幌	9	16	25	0	0	0	0	0	1	0
40	美唄	16	43	59	2	0	0	0	0	0	0
41	富良野	25	42	67	0	1	1	0	0	6	0
42	留萌	55	95	150	12	0	0	0	1	3	0
43	稚内	40	40	80	36	0	1	0	0	1	0
旭川地区計		546	908	1,454	81	11	63	2	9	38	14
44	池田	20	34	54	0	1	0	0	0	0	0
45	帯広	157	229	386	0	2	4	0	5	4	0
46	釧路※3	164	244	408	25	0	134	0	1	21	0
47	中標津	57	98	155	28	0	1	0	0	0	0
48	根室	5	19	24	1	0	0	0	0	1	0
49	柏林台	79	120	199	33	1	2	0	0	2	0
50	本別	9	13	22	0	0	0	0	0	1	0
釧路地区計		491	757	1,248	87	4	141	0	6	29	0
51	苫小牧	96	170	266	0	5	3	0	1	6	1
52	静内	20	17	37	3	1	0	0	0	0	0
53	伊達	34	72	106	0	0	61	0	0	2	0
54	登別	31	37	68	1	0	0	0	0	2	0
55	東室蘭	38	98	136	0	3	2	0	0	2	0
56	室蘭	28	55	83	0	2	42	0	1	2	0
苫小牧地区計		247	449	696	4	11	108	0	2	14	1
合 計		5,056	8,374	13,430	617	141	766	19	80	292	60

※1 2022年度分より居所不明10年以上の場合は転出扱いとなり信徒総数より差し引くこととなった。

※2 (巡)美幌教会含む ※3 (巡)厚岸教会含む

性虐待被害者のための 祈りと償いの日

3月21日(金)、第9回目となる性虐待被害者のための祈りと償いの日、カトリック北一条教会では勝谷太治司教司式によるミサが行われた。

勝谷司教は説教冒頭で「カトリック教会に限らずキリストを信じる全ての人には命を守り、人間の尊厳を守る努めがあり、キリストの教会にあつて、率先して命を守り、人間の尊厳を守るはずの聖職者や霊的指導者がそれを破壊する側の人間となり、多くの人が、特に保護されなければならぬ未成年者に対し、その尊厳を踏みこむ行為を働いた事例が今も世界中で報告されている。長期にわたる深い苦しみを生み出した聖職者や霊的指導者の行為に対して、教会を代表するものとして心から謝罪する」と述べた。

日本の司教団は2002年以来、ガイドラインの制定や「子どもと女性の権利擁護のためのデスク」を設置し、対応する体制を整えつつある。

しかし聖職者をはじめ、教会全体の意識改革など、なすべきことが多々あり、教会の取り組みもまだまだ十分ではない。司教団はこの体制の見直しと誠意の努力を続けている。

教区ハラスメント対応デスクでは、今後も啓発の一環として、教区ニュースに案内および記事を載せ続けると同時に、ホットラインによる相談のほか各教会からの依頼を受けて、研修や祈りの集いなどにも対応する。また、デスクでは「『聖職者による』だけではなく、信徒間ハラスメントなど、困ったときはいつでも遠慮なくデスクへ連絡してほしい」と呼びかけている。



**カトリック札幌司教区
ハラスメント対応デスク**

080-2879-3168

火曜～金曜 12:00～16:00
祝日及び夏季冬季休業日除く

✉ sapporo.harassmentdesk@gmail.com



NPO法人北海道ダルクとNPO法人札幌マック

NPO法人札幌マック 理事長 松村繁彦

北海道ダルク、札幌マックは、薬物・アルコール・ギャンブルなどの依存症（精神疾患も含む）で苦しむ人のために、各々互いに集まり、回復を目指し、また社会復帰して行く為に、仲間とともに歩む施設です。

誰もが些細な依存性（食べ物、薬、携帯電話、ゲーム等）を持っています。しかし時と場所、周りの友人知人・親兄弟などからの忠告を受けて深くのめりこむことは避けられてきました。しかし中には一人で立ち向かわなければならないとき、逃げてしまい孤独になり、逃げ場として依存性の強いものに手を出してしまうことがあります。人間誰もが生きるために選んだ道によって依存症になった方々、今もなお苦しむ方々が、人との交わりを作り、ともに回復プログラムを行い、共に歩み、社会でも再び歩み出す為に支えるのがこれらの団体です。現在でも全国各地の教会を使い、回復プログラムやその家族のケアなどのためのミーティング（AA, NA, EA, GAミーティング等）を行っています。

元々メリノール宣教会の一人の司祭が、1978年にアルコール依存症から回復したことがきっかけとなり、既にあったアメリカの中間施設のプログラムをモデルに東京にデイケア・リハビリテーション施設として設立したのが始まりで、その後、薬物依存者を中心としたグループ、アルコール依存者を中心としたグループなど、細分化されて全国のカトリック教会の協力を経て広まりました。中には教会とのつながりから、洗礼に導かれ、教会共同体に加わった方も大勢います。

それぞれの歩みの中では、依存症が再発してしま

うケースもありますが、そのたびに一人にならないようお互いに配慮しながら毎日のプログラムを通して互いを守り合いながら活動を続けています。これらの団体は行政による助成金や皆様からの寄付金によって成り立っていますが、利用者の減少による助成金の減収、利用者の経費、特に食費をはじめ生活必需品、活動資金等、その活動を支える資金が非常に厳しくなっています。お米などの物価の高騰はこのような人々の生活を直撃しました。

今回紹介させていただきましたそれぞれの活動に、今まで関わってきたカトリック教会に改めてご支援とご協力をいただきたく、ここにお願ひすることといたしました。

また御寄付・支援金は随時受け付けていますので、ご一報いただければ幸いです。

なお、入所・通所等の相談は、来所、電話、FAX、メール等で受け付けております。相談費用はかかりませんのでお気軽にご連絡ください。来所の場合はあらかじめご連絡ください。

●北海道ダルク (理事長：芦沢健 施設長：森)
〒065-0025 北海道札幌市東区北25条東5丁目1-17
TEL 011-750-0919 ✉ darc@taupe.plala.or.jp
ホームページ <http://h-darc.com>

●札幌マック (理事長：松村繁彦 施設長：小野寺)
〒003-0002 札幌市白石区東札幌2条5丁目1-2
TEL 011-841-7055 ✉ info@sapporo-mac.jp
ホームページ <http://www.sapporo-mac.jp/>



60年の歩み 札幌聖心女子学院

この3月末をもって、60余年の歴史に幕を降ろした札幌聖心女子学院は、1963年に日本で7番目の聖心姉妹校の小中学校としてイエスの聖心（みこころ）の愛を学び、伝える生徒を育てるために開校しました。特色のひとつに宗教教育と並んで英語教育があり、創立当初から外国人シスターの美しい発音の指導により、自然に耳でおぼえ親しみ、抵抗なく英語を身に付ける生徒を育てる伝統は最後まで続きました。

1966年には高等学校、1969年には英語専攻科を開校するなど、教育の幅も広がりました。その後、社会福祉教育にも力を入れ、北海道視覚支援学校、高等聾



学校との交流を進め、拡大辞書作りや点字学習、朗読テープ制作などに取り組んできました。昨年2024年が視覚支援学校との最後の交流となりましたが、学院の生徒たちを支援学校の全生徒と教職員の方々が玄関の外まで見送ってくださったことは忘れられないひとコマです。

2000年代に入り、国の教育方針に「課題探究」が入り始めた時期に、すでに取り組んでいた「思考力・判断力・表現力」を育てる教育を、教科横断型授業や、国連の「世界開発目標（SDGs）」、「持続可能な開発目標（SDGs）」の教育を通して更に促進し、文部科学省より「スーパーグローバル

スクール（SGH）」の研究指定を受け、ICTリテラシー教育とともに推進してきました。

創立時の聖心会の総長マザー・デユバロンの言葉「ここは世界に開かれた窓」の通り、90年代のアメリカ研修、21世紀に入ってからアジア4カ国、英語圏4カ国、ヨーロッパ3カ国などに20余の「短期長期交換留学制度を育て、SGH指定後は、ニューヨーク国連研修派遣など、世界に目を向け、世界規模の課題を自分ごととして、振り返りと気づきのうちに、自分には何ができるかを考え、アクションプランを策定して実行する教育を推進してきました。

しかし、少子高齢化等による生徒数減少等の影響などを受け、残念ながらその歴史を閉じることになりました。「札幌聖心で私たちはイエスのみこころの愛を学びました。『決してあなたから離れず、置き去りにしない』とのお言葉を心に刻み、全ての人々が同じように神様に愛されていることを伝えるよう導かれました。札幌聖心は、いつも私たちの心と言葉の中にあります。」という生徒の言葉を聞き、時かかれた種は必ず芽吹いていくとの希望に満たされました。

これまでお世話になった皆様に感謝の祈りをお捧げ致します。ありがとうございました。

（札幌聖心女子学院中学高等学校 校長 齊藤 隆浩）

祈りと感謝で紡いだ未来への思い

留辺薬マリア幼稚園

62年の歴史に幕

留辺薬マリア幼稚園は昭和38年に農業と林業が盛んな街・留辺薬町に設立されました。当時の留辺薬町は活気に満ち溢れ、子どもが多く、地域の方は新しい幼稚園の設立を待ち望んでいました。

設立時の神父は道東の小さな町にカトリックの種を蒔くという大きな使命を持ち、園は地域に唯一の幼児教育施設として大きな役割を果たしてきました。62年経った今でもカトリック園としてお祈りの時間を大切にす心・感謝する心は続いています。我が子が家庭で食前や就寝時に祈る姿や、お菓子を親や兄弟に分ける姿を通して保護者には園の良さを感じて頂けました。

しかし地区の昨今の人口減と想定を上回る少子化の一方で、公立保育園では存続の方針が出されたことで令和6年度で閉園することになりました。留辺薬は寒い地域ですが住

民は温かい方ばかりです。園児が散歩をしていると、まるで親戚であるかのように声を掛ける土地柄で、幼稚園を身近に感じ優しく包み込んでくれました。閉園が決まってからも沢山声を掛けて頂き、心の繋がりを感ずります。

閉園後も携わってくださった方全ての心が繋がりが、マリア幼稚園を思い起こした時にふるさとに帰ったような心温まる記憶となっているように願っています。

（園長・堂腰田紀江）



日本カトリック正義と平和協議会 2025年全国大会

2025年1月31日〜2月1日、東京で開催された日本カトリック正義と平和協議会（以下「正平協」）の全国会議に2人の仲間と共に札幌教区から参加した。初日の公開講演会は掲題のテーマのもと、名古屋の松浦悟郎司教とSr.弘田しずえが講演された。松浦司教の話は正平協50年の歴史を振り返るもので、正平協が教会内で話しにくいのは何故かと自問しながら意見の異なる人たちとこのように向き合うべきかという示唆が与えられたように思った。Sr.弘田は2024年第2期シノドスで合意され、教会の目指す「包摂性（インクルーシブ）」について説明された。私が購読している「福音宣教」誌に



シノドスに関連した記事が毎回載っているのを、改めてよく読んでみようと思った。

翌日は、第二バチカン公会議後に正平協の歩みが始まり、50年に渡り社会の様々な事柄に対して各地で取り組まれた活動を振り返った。現在、政府が進める大軍拡の計画について教会で語られるとき、軍需産業で働く家族のいる信徒から「反発される」という発言は私にとっては印象的だった。

（苫小牧教会・柳谷豊）



カトリック札幌教区正義と平和協議会 ミヤンマーの青年から学ぶ

2025年2月22日、カトリック札幌教区正義と平和協議会主催の元、札幌教区カトリックセンターで「ミヤンマーの青年から学ぶミヤンマーの今と彼らの信仰」が開催されました。

オンライン参加を含んで約40名と多くの方が参加されました。スライドを使ってたくさんの写真を見せながら話してくれたのは、



札幌や小樽で働くミヤンマーの青年たちです。

彼らはクーデターにより突然、未来を奪われ将来を犠牲にして、心ならずも武器を手にして軍との戦いか、海外へ逃れるかの選択を迫られています。また、ミサの最中に教会が爆破されることもあり、大切な祈りの場所・こころの拠り所さえも奪われています。

おそらく報道されることのないであろう現状を知る機会となりました。その現状は決して他人事ではありません。一日も早く平和な生活を取り戻せるようお祈りで支えるとともに、確かな情報を知り、わたしたちに出来ることを考え、実行しなければならぬと改めて思いました。

（月寒教会・鳥居明子）

2025年、カトリック的には「聖年」、戦後80年であり、昭和100年の今年、改めて「平和」を考える一年にしたいと考え、同じ思いの方々と「ピースデイズ2025」をキーワードに動き出すことにした。

実は、東日本大震災の後、「むすびば」という市民団体による復興支援に関わっていたが、今こそ平和を考えようと、「ピースデイズ2011」を開催した。「ピースデイズ2011」は、7月30日から8月15日の間

「平和と核を考える」をテーマに、平和を考える全ての人や団体がそれぞれの切り口で主体的に取り組みながら、いかに生きるか、未来をどう作るのか、共にその選択への手かりを探すことを目的として行われた。

とどまらず ピースデイズ

2025

大きな取り組みとしては、広島での原爆をテーマに、過去と現代を生きる2人の女性の物語を描いた、この時代のコミックを映画化した『夕風の街 桜の国』の上映と丸木美術館所蔵の『原爆の図』パネル展を札幌弁護士会館と札幌駅北口のエルプラザで数日展示した。

「平和」とは何だろうか？
あなたにとっての「平和」とは何だろうか？
ピースデイズ：平和な日々が続くことを願い、願っただけではなく巡礼に出かけるように一歩踏み出しましょう。2025年が、平和の広がる年となりますように。

（札幌教区難民移住移動者委員会・西千津）

◆マリアの宣教師
フランシスコ修道会



Sr.M.フランチェスカ
山口京子

25年3月17日、創成東病院にて神様のみもとに召されました。83歳。

【略歴】

1941年9月14日生まれ
1969年9月16日入会
1978年3月19日終生誓願
2019年9月16日ダイヤモンド祝

◆殉教者聖ゲオルギオの
フランシスコ修道会



Sr.M.ビルジッタ
萩原 ぎん

24年12月11日、札幌マリア院にて神様のみもとに召されました。97歳。

【略歴】

1927年2月12日生まれ
1959年5月16日受洗
1960年3月18日入会
1968年8月12日終生誓願
2022年11月3日ダイヤモンド祝



Sr.M.マルチナ
古川フミエ

24年12月23日、花川マリア院にて神様のみもとに召されました。99歳。

【略歴】

1925年7月15日生まれ
1948年10月31日受洗
1950年8月26日入会
1959年9月24日終生誓願
2013年11月23日ダイヤモンド祝



Sr.M.フェリックス
小笠原 敦子

25年1月13日、花川マリア院にて神様のみもとに召されました。87歳。

【略歴】

1937年7月18日生まれ
1954年4月17日受洗
1959年9月24日入会
1968年8月12日終生誓願
2022年11月3日ダイヤモンド祝



Sr.M.グレットィ
内山 重子

25年2月12日、花川マリア院にて神様のみもとに召されました。95歳。

【略歴】

1929年8月25日生まれ
1948年3月27日受洗
1963年3月25日入会
1972年8月12日終生誓願
2015年11月23日誓願金祝



Sr.M.アグネラ
渡邊 麗子

25年2月13日、月形藤の園にて神様のみもとに召されました。95歳。

【略歴】

1929年11月30日生まれ
1952年4月12日受洗
1954年10月4日入会
1963年8月12日終生誓願
2016年11月23日ダイヤモンド祝



Sr.M.フィロメナ
前村 八重

25年3月4日、花川マリア院にて神様のみもとに召されました。105歳。

【略歴】

1920年1月2日生まれ
1930年11月1日受洗
1948年10月2日入会
1956年9月15日終生誓願
2010年11月23日ダイヤモンド祝



Sr.M.フェリチタ
山崎 順子

25年3月12日、月形藤の園にて神様のみもとに召されました。100歳。

【略歴】

1924年8月5日生まれ
1949年12月8日受洗
1956年3月19日入会
1964年9月23日終生誓願
2018年11月3日ダイヤモンド祝

白石共同墓

札幌市白石区平和通
10丁目北5-1
札幌市白石本通墓地

札幌教区の司祭・修道者、
信徒ならびにその家族を対象
とした合葬墓

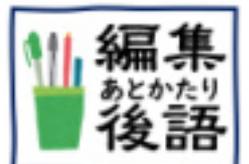


クリプト札幌

カトリック札幌司教区
納骨堂

札幌教区カトリックセンター
地下家族壇568・合葬壇
730 天候問わずいつでも
墓参可能

お問い合わせ ☎060-0031 札幌市中央区北一条東6丁目10 札幌司教区本部事務局
電話：011-241-2785 FAX：011-221-3668
平日12:00～13:00を除く9:00～17:00 (土曜日曜祝日及び夏季冬季休業を除く)



雪が去り、春の草花が萌出る季節になると、住んでいる教会からも見える暑寒別岳を見て、もうすぐ山登りの季節が来ることにワクワクしてきます。北海道の春は遅く、梅も、桜も一緒に咲いて、にぎやかな春という感じがします。雪が解けて地面がでてきて、雪の下でまるで死んでいたような枯草の間を縫って春の花が顔を出す。それを見つけたとき、

そのありようがキリストの受難と死と復活を祝う、聖週間・復活祭が重なり、生命の神秘を肌で感じる瞬間となります。まるで死んだように枯れて茶色くなった草と土の下で、雪に押しつぶされながら厳しい寒さをしのび、春の陽気と共に一気に地上に出てくる。この姿が、死んで墓穴に葬られて復活したイエス様に重なるのは、けっして不思議ではないでしょう。いまのわたしたちの周りが、たとえ不安や厳しい現実に囲まれていても、きつとその後イエス様と共に立ち上がる事ができる、復活する事ができるのだと信じられるとき、厳しい冬すらもワクワクしたものに感じられるのかも知れません。それが「希望」というものの正体のような気がします。(佐久間力)